

# 第2回城崎温泉交流センター基本計画検討会資料

## さとの湯基本計画検討委員会

### 前回（7/2）の話のだいたいのまとめ

#### 1. 城崎温泉交流センター（さとの湯）基本計画の目的と背景

- ① 将来の人口減少を見据え、公共施設のあり方を見直し、次の100年につなげていく
- ② 路線価は上昇しており、城崎は注目されている地域であること
- ③ 市民や観光客にとって使いやすい施設とするため多様な意見を取り入れることが重要

#### 2. 検討会の概要と進行方法

- ① 検討会の進捗はできるだけ公開として、町民の意見を反映させながら進める
- ② 会場の都合もふまえ、15人程度を上限に傍聴可能にしていく予定である
- ③ 記録用にビデオ撮影、音声の録音を行う
- ④ 検討会日程を調整し、2～3回程度の開催を予定（もう少し増えそうです…）

#### 3. 公共施設の集約化と機能

- ① さとの湯の基本計画として城崎文芸館・麦わら細工伝承館を統合する提案としたい
- ② 文芸館のコンテンツ分散というのは概念は分かるが実際には簡単じゃないかもしれない
- ③ 健康福祉センターや旧城崎町給食センターも含めた利活用案の検討を進めている

#### 4. 施設の設計と運用

- ① 今年度はさとの湯の基本計画を策定し、来年度基本設計、次年度実施設計予定
- ② 長期的な運用を考慮しながら、維持費がかからない健全な運用ができるようにする
- ③ JRから借りている土地の活用も検討し、JRとの連携を進める
- ④ 採算がとれる施設となることが重要（2階にお湯を上げて採算が取れる可能性はある）
- ⑤ 価値あるものを保存する保存環境が必要

#### 5. 文化と観光の融合

- ① 城崎の歴史と文化を感じられる施設が重要
- ② 麦わら細工の体験スペースや、文芸館の機能を集約し、地域の魅力を高めたい
- ③ サウナなど、温泉施設の魅力を強化する

#### 6. 施設の具体的な機能とデザイン

- ① 文芸館の機能は観光案内所など、わかりやすい場所に移すことが望ましい
- ② 伝承館や文芸館の機能を、新しい施設にどう集約するかは慎重に考えたい
- ③ 駐車場やイベント広場の配置を考慮して、土地の有効活用を図りたい
- ④ さとの湯は駅通りの商業を牽引する存在であるといえるが、上手くいってない部分もある

#### 7. 若者や住民の意見

- ① 若者や地域住民にとっても魅力的な施設であることが重要
- ② 出生数の減少も考え、長期的な視点で施設のあり方を考える必要がある
- ③ 若者の意見を積極的に取り入れ、地域活性化につながれるとよい
- ④ さとの湯は「城崎に帰って来た感」を感じられる風呂（お風呂で同窓会など）

#### 8. サウナの設置と運用

- ① サウナは地域住民や観光客に人気があり、魅力的なコンテンツ（ブームからスタンダードに）
- ② 城崎らしいサウナが求められるが、管理の大変さも考慮したほうがよい
- ③ 別料金による運用を含め、サウナの「和」解釈など特色のあるサウナの導入を検討したい

## 前回（7/2）委員会終了後の皆さんの感想より

- ・運営（経営）をどこがするのかを考えながら検討を進めるべき
- ・他の外湯とは違う考え方をとる→名物館長（支配人）と風呂好きな人が運営する仕組み
- ・防災拠点としての機能も考えておく必要があるのでは
- ・駐車場が不足しないかが心配
- ・皆が納得のいくさとの湯をつくりたい
- ・麦わら細工伝承館はコンテンツを新しい形で見せていきたい
- ・サウナは必要
- ・サウナが人の集まるコミュニケーションツールであるなら別料金で検討するのもあり
- ・駅通りのお店の夜の営業はマストではないか
- ・町民の入湯料・契約入湯料についてはみんなで話し合う必要がある
- ・風呂・文芸館・伝承館は入口を一つにするとよいのでは（休憩処に展示・実演等）
- ・新たな施設は観光客向けなのか、住民向けなのかを明確にする必要がある
- ・世界に影響力のあるインパクトある施設に
- ・高齢者の入浴無料をどうするかを検討が必要